

消化器内科クリニック新規開業のポイント

日本臨床内科医会会誌編集委員会委員長

鳥居内科クリニック院長 鳥居 明

<はじめに>

消化器内科クリニックの新規開業を考えている先生は、消化器内科を専門にしていた先生だけでなく、消化器外科、あるいは内視鏡科を専門にされていた先生もいらっしゃると思われます。また、消化管を専門にしていた先生と肝・胆・膵を専門にしていた先生では多少診療の対象が異なることが予想されます。開業した場合は消化器全般に対応できる体制を構築することが必要と思われます。

<開業の形態>

継承の場合は自宅併設の診療所を引き継ぐ場合が多いと思われますが、新規に診療所を立ち上げる場合には診療機器をどこまで備えるかによってスペースが異なります。消化器内科クリニックの場合は待合室、診療室、X線検査室、内視鏡検査室が必要であり、入院がなければ、ビル診療所、テナント診療所で開業が可能です。さらに外来でも点滴を行う場合には点滴室が必要となります。市街地で開業する場合には、利便性を考慮すると交通の便の良いテナントでの開業、いわゆるビル診での開業が有利と思われます。

<開業時の人員>

受付、看護師、医師の3人は最低限必要となります。医師は開設者、管理者が診療にあたりますが、受付、看護師は雇用する必要があります。現在は人員不足の状況であり、新規開業でもスタッフが集まらないということがあられるようです。受付、医療事務では人材派遣を利用することも一つの方法となります。消化器内科の場合は臨床検査技師の雇用も有用です。注射以外は採血、診察補助、検査説明などが可能ですし、内視鏡検査、エコー検査の保守だけでなく、医師のダブルチェックのもとではエコー検査のスクリーナーとしても活躍してくれます。また、院内で行う至急検査も中心になって対応してもらえます。

<開業時の機器>

消化器内科であっても、健診業務に携わることが多く、血圧計、心電図、酸素飽和

度測定器具、X線検査装置などは必須となります。X線検査は、消化器専門であればスペースは必要となりますが、立位だけでなく、仰臥位が撮影できる装置をお勧めします。急性腹症、腸閉塞の検査ではきわめて有用といえます。また、院内検査としては自動血球測定器、CRP測定器は有用です。内視鏡検査は勤務医時代に上部消化管内視鏡（胃内視鏡）検査、下部消化管内視鏡（大腸鏡）検査の両者を行っていた場合が多く、両者を導入することを考えている先生も多いと思われます。下部消化管内視鏡検査では前処置の問題、偶発症の問題、検査時間の問題等を十分に考慮する必要があります。

<地区医師会との関連>

消化器内科で開業する場合は、地区医師会への加入はメリットが多いと考えられます。自治体が施行する対策型がん検診としては、胃がん検診、大腸がん検診が消化器内科と関連しており、内視鏡胃がん検診、便潜血大腸がん検診とともにその精密検査も取り込むことができます。

<近隣入院施設を有する病院との連携>

消化器内科クリニックではいわゆる急性腹症の患者が多く訪れます。救急で入院、手術が必要な場合も多く、その場合の送り先となる後方病院の確保は必要です。また、肝・胆・膵疾患においても、入院が必要となることが多くみられます。日常診療で困った時に頼りになる病院との病診連携は必須を考えられます。また、MRIなどの高額検査機器を自院で保有することは困難であり、必要のある時には躊躇せずに検査が依頼できる検査可能な施設との連携も重要です。

<おわりに>

消化器内科クリニックを新規に開業する際のポイントを述べてきました。勤務医時代のように多くの検査を行い、入院での治療を受け持つことはできなくなりますが、患者の一生と寄り添い、その家族ともお付き合いができる地域に根差した医療を経験することができます。しかし、開業には多くの資金が必要となりますので、立地と資金計画を熟慮されることをお勧めいたします。消化器内科クリニックの新規開業を考えている先生の参考になれば幸いです。